

豊水

静岡県水産試験場

駿河湾深層水水産利用施設

Suruga-Bay Deep Seawater Aquaculture Research Center
of Shizuoka Prefectural Fisheries Experiment Station

深海からの来訪者 No.3, 4

駿河湾深層水取水供給施設内にある取水ストレーナー内に、深海生物が混入することは本誌 Vol. 4 で既に報告しました。今回は、混入頻度が比較的多いホラアナゴ科の2魚種について報告します。ホラアナゴ科の魚は、体が細く、肛門は体の中央付近かそれより前にあります。その中で、コンゴウアナゴ亜科やホラアナゴ亜科の魚は、体に埋没小鱗があり、鰓孔が腹面にあるという特徴を持ちます。"深海からの来訪者 No.3"としてコンゴウアナゴ亜科に属するコンゴウアナゴを、"深海からの来訪者 No.4"としてホラアナゴ亜科に属するイラコアナゴを、以下に紹介します。 (岡本一利)

来訪者名： コンゴウアナゴ *Simenchelys parasiticus*

採取月日： 2005年5月16日

採取場所： 水深687m取水ストレーナー内

サイズ： 全長25.2cm

体重： 28.3g

紹介： 本種(写真1)は、西部太平洋、南アフリカ、大西洋の水深366~2630mに分布し、日本では高知県~北海道で採捕されます。おちょぼ口で、頭部と胸部には鱗はなく、全長約60cmほどになります。普段は独立に生活していますが、ときどき大型の魚の体内に潜り込み寄生生活をおくるようです。



写真1 コンゴウアナゴ

来訪者名： イラコアナゴ *Synphobranchus kaupii*

採取月日： 2005年6月30日

採取場所： 水深687m取水ストレーナー内

サイズ： 全長44.1cm

体重： 107.8g

紹介： 本種(写真2)は、インド・北太平洋、大西洋の水深236~3200mに分布します。日本では高知県~北海道で採捕されます。口は大きく、眼は口裂中央に近いことが特徴で、全長約80cmほどになります。クロハモ、クロウナギとも呼ばれ、蒲焼などで食用とする地方もあります。



写真2 イラコアナゴ